

名古屋市立大学芸術工学研究科・芸術工学部未来プラン

「希望と共感のデザイン」

未来プランの構成

I. 未来プラン作成のスタンス

1. 設立当初の理念を尊重する
2. 20年の活動系譜を踏まえる
3. 人間を中心とした社会環境のデザイン
4. 社会の変化と要請を踏まえる
5. 特色を生かした内発的発展を目指す
6. 大学の中期目標・計画を見据えたプラン

II. 創設から未来に向けて

1. 芸術工学部創設の経緯
2. 創設20年の実績
3. 芸術工学研究科・芸術工学部、次の15年

III. 教育研究の理念と領域

1. 教育研究上の目的
2. 教育研究領域

IV. 教育研究環境の特色

1. 公立総合大学に設置された学部としての役割
2. 都市部に立地するキャンパス
3. 少人数による実践的教育

V. 未来プランの骨子

1. 大学院における教育研究の充実
2. 地域のデザイン拠点として
3. 学際的体制の構築

VI. 未来プランにおける行動目標と達成手段

1. 教育に関わる未来プラン
2. 研究に関わる未来プラン
3. 社会貢献に関わる未来プラン
4. 学部運営に関わる未来プラン

VII. 未来プランの推進に向けて

I. 未来プラン作成のスタンス ～芸術工学の理念の継承と改革～

名古屋市立大学芸術工学部は 1996 年に創設、学年進行とともに芸術工学研究科を整備し、新しい時代のデザインを追究する教育研究活動を積み重ね 20 年の歴史を重ねてきました。この機会に創設時の理念を再確認し、社会の状況の変化に対応すべく、次の 15 年間を見据えた将来構想を構築するものです。

1. 設立当初の理念を尊重する

「デザイン」をキーワードとする学問領域である「芸術工学」は、芸術と工学を融合する学際性と、理論に裏付けられた実践性に特色があります。創設時のこうした理念を継承しつつ、新しい時代に向けての行動計画を構築します。

2. 20 年の活動系譜を踏まえる

学部創設以来、社会を取り巻く状況の変化に対応しながら、教育研究体制を修整し拡大させてきました。「ものづくり」の集積するこの地域において関係者の積み上げた実績を活かしたプランを策定します。

3. 人間を中心とした社会環境のデザイン

バーチャルな情報環境から、リアルな生活・都市環境までを対象とし、人々が安心して、気持ちよく真に豊かな文化的生活を享受するために、人間理解を前提とする芸術工学の考え方や手法への期待は大きいものがあります。

4. 社会の変化と要請を踏まえる

学際的な知識と手法を融合した新規の発想と、理論と実践に裏打ちされた堅実な企画力で、時代をリードする希望と共感のもてるデザインへの挑戦を行います。

5. 特色を生かした内発的發展を目指す

名古屋市立大学芸術工学研究科・芸術工学部は、少人数による実践的教育を特色としており全国でも希少なデザイン分野の教育研究拠点です。各分野で実績をもつ個性的な教員スタッフによる着実で実験的な教育研究活動がより促進される体制を整えます。

6. 大学の中期目標・計画を見据えたプラン

名古屋市立大学に設置された学部として、大学の中期目標・計画の実行を見据えた計画を立てます。また、ここでは 15 年程度先を見据え、実行に当たっては学部の理念を根拠とすると同時に、節目ごとにプランの見直しを行うこととします。

Ⅱ. 創設から未来に向けて ～地域と共に発展した芸術工学研究科・芸術工学部～

「芸術工学」は新しい学問分野であり、創設期からその理念構築に多くのエネルギーを注いできました。創設後今日までの20年は、理念に沿った実践と検証の期間でした。この間、地域社会から国際社会に至るまでさまざまな支援を受けると同時に、研究教育を通じた学問分野及び社会への貢献を積み重ねてきました。創設時に在籍したスタッフの半数以上が入れ替っており、この機会に創設時の理念を再確認し、社会の状況の変化に対応すべく、次の段階に向けた将来構想を構築するものです。

1. 芸術工学部の創設の経緯

名古屋市の設置した「大学の将来構想に関する懇談会」は、平成5年4月に「デザインをキーワードに、感性と理性の両面を備えた次元の高い人材を養成する芸術工学系の学部」の設立を提言しました。「名古屋市が『世界デザイン博覧会』以来、デザインを都市づくりの主要なテーマに取り入れ成功させてきていることをふまえ、これをさらに都市の風土にまで高める」という目的を担ったものです。これを受け、平成7年4月文部科学省に提出した新学部の設置認可申請書には、「人間社会に適合した環境を創造するために、人間社会についての広い視野と高い感性、科学技術に関する知識と技術をもとにして、多面的諸要求、機能をコーディネートし、調和のとれたデザインを実現する能力を備えた人材を養成する」という理念が記述されています。

こうしてデザインを都市づくりの理念とする名古屋市に、人間社会にふさわしい環境創造のための研究教育拠点として芸術工学部が設置されました。

2. 創設20年の実績

芸術工学部は、理論と実践に通じたスタッフを集め「景観」と「健康」をキーワードとして、「視覚情報デザイン学科」と「生活環境デザイン学科」の2学科でスタートしました。2000年には大学院博士前期課程を、2002年には同後期課程を開設し、芸術工学分野による高度な教育研究体制を整えました。2005年には、都市分野とプロダクト分野の配置換えを行うことで改組を行い、2学科の名称を「デザイン情報学科」と「都市環境デザイン学科」と変更しました。さらに2012年には、「デザイン情報学科」を「情報環境デザイン学科」と「産業イノベーションデザイン学科」の2学科に分離拡大し、「建築都市デザイン学科」を加えた3学科体制としました。

この間、研究室による研究活動は、産業分野、自治体、学会などで着実に成果を上げるとともに、社会に羽ばたいた卒業生の活躍が広がることになりました。2014年度末には学部卒業生の累計が1000名を越えるまでになり、芸術工学という専門性を活かして社会で活躍する卒業生が増えました。

3. 芸術工学研究科・芸術工学部、次の15年

次の15年間には、大学の社会における役割と大学そのものの運営体制が大きく変化すると予想されます。激しい変化を乗り切るためにも、芸術工学の揺るぎない理念に立ち返り、地道で着実な教育研究活動を持続します。

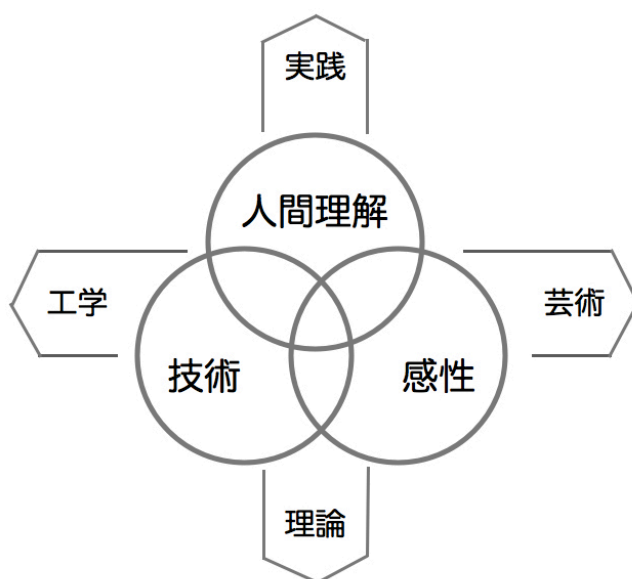
我々の都市生活は目覚ましい技術革新により格段に便利になってきました。しかし、少子高齢社会の進行、エネルギー供給の不安、自然災害の恐怖など、根本的な不安要素がのしかかっています。一方で、高度に複雑化した社会環境は人間らしい感覚から遠ざかりつつもあります。解決すべき課題は複雑で複合化しています。俯瞰的な戦略をもって課題解決に向かう必要があります。表層のデザインではなく、「コトのデザイン」から「モノのデザイン」まで戦略をもって新しい事柄を切り開くデザインが、社会の課題解決に貢献できる機会はますます重要性を増しています。

Ⅲ. 教育研究の理念と領域

芸術工学部の理念としての「教育研究上の目的」をあらためて定義するとともに、学部を構成する3つの教育研究領域における人材育成の目的を確認します。

1. 教育研究上の目的

芸術工学部の教育研究上の目的は、現代社会の解決が困難な諸課題を希望と共感のもてるデザインで解決するため、生活者である人間の特性を理解し構想（Design）から構築（Architecture）までの調和のとれたデザインに関する理論と実践について研究し、芸術のもつ感性と工学で培われた技術を備えたデザイナーを育成することである。



2. 教育研究領域

(1) 芸術工学部

数理学の基礎学力と、発想力、造形力を身につけ、デザインの力で社会に貢献することを目指す人材を対象として、「技術」、「感性」、「人間理解」を3本の柱に、幅広い視野と教養、創造性豊かで高度な知識と技術を教育し、地域社会及び国際社会に貢献できる総合デザイナーを育成することである。

(2) 情報環境デザイン領域

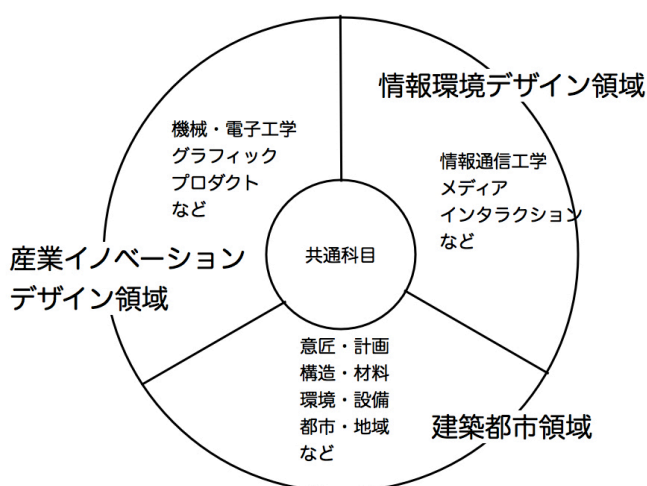
情報環境デザイン領域は、情報通信工学などを基盤とし、インタラクション、メディアなど情報デザインに関わる専門能力をもった人材を育成する。

(3) 産業イノベーションデザイン領域

産業イノベーションデザイン領域は、機械・電子工学などを基盤とし、グラフィック、プロダクトなど産業デザインに関わる専門能力をもった人材を育成する。

(4) 建築都市領域

建築都市領域は、建築から都市にいたるまでの広範囲な計画やデザインに重点をおき、安全・快適・健康で文化的な環境に寄与する建築、まちづくりに関わる専門能力がある人材を育成する。



卒業研究・卒業制作	
(学部共通関連科目)	
実習	展開科目 基礎科目 (学科専門科目)
情報処理・人間工学 色彩論・デザイン史/論 (学部共通基礎科目)	
数学・美術 (基盤学問)	

IV. 教育研究環境の特色

名古屋市立大学芸術工学研究科・芸術工学部は、公立総合大学の一学部として名古屋市千種区に学部単独キャンパスをもち、少人数による実践教育を推進してきました。キャンパスの立地は、教育研究環境を外的に規定するものですが、こうした条件を生かした行動計画を立てます。

1. 公立総合大学に設置された学部としての役割

芸術工学研究科・芸術工学部は、名古屋市を設置母体とする公立大学に設置された学部であり、名古屋市の行政サービス、市民生活に関わる課題について教育研究上、名古屋市と密接な関連をもつことができます。また、名古屋市立大学は、医療系（医学部、薬学部、看護学部の3学部）、文化系（経済学部、人文社会学部の2学部）、理学系（システム自然科学センター）を擁する総合大学であり、学際的な芸術工学研究科・芸術工学部の立ち位置を活かすことができます。

2. 都市部に立地するキャンパス

芸術工学研究科・芸術工学部は、交通便利な都市部に立地しています。都市内の他の高等教育機関との連携、文化、教育、医療施設など公共機関との連携、市民主体の諸団体等との連携が図りやすい立地を活かすことができます。また、単独のキャンパスであり、高度に整備された専用の教育環境を十分活かすことが求められています。

3. 少人数による実践的教育

入学定員は、学部100名、大学院博士前期課程30名、同博士後期課程5名の比較的小規模な高等教育機関です。教員スタッフの多くは社会的な研究・デザイン活動で業績を得ており、その経験を生かした実践教育を行っています。学生は、実技を重視したカリキュラムを通じて、少人数の学習環境で、教員と学生の密接な関係を保っています。

V. 未来プランの骨子

芸術工学研究科・芸術工学部は、創設期に示された地域からの要請に対して教育研究に関わる成果を着実に積み上げてきました。与えられた環境を活かして、地域における先端的デザイン拠点としての基盤を築いてきました。これまでの実践的な少人数教育を、さらに引き延ばすための目標として以下の3点を掲げます。

1. 大学院における教育研究の充実

大学院大学として高度な能力を有する研究者、職業人を養成するための、大学院レベルの教育研究環境の充実を目指します。そのために教員学生ともに優秀な人材を集めるとともに、外部資金獲得のための方策を講ずることとします。

2. 地域のデザイン拠点

芸術工学という実践的教育研究のプロセスを、外部の諸団体、関係機関と共有することで、モノづくりを基盤とするこの地域のデザイン拠点としての機能を果たします。また成果を効果的に外部に発信する、あるいは次世代を担う子どもたちに伝えることで社会貢献を図ります。

3. 学際的体制の構築

特定分野における個性的な研究教育能力を活かしながら、異分野同士が複合的な課題やプロジェクトに取り組むことで、あらたな芸術工学の可能性を切り拓くものとします。複数教員による共同研究、学部・大学院の連携など領域をまたぐ相互学習機会を設けます。

VI. 未来プランにおける行動目標と達成手段

ここでは未来プランの3つの骨子に基づき、教育、研究、社会貢献、学部運営という項目別の行動目標と、達成のための手段を掲げます。

なお、各項目の達成のための目標を略号で示しました。i：1年以内 to 実現させる、ii：今後3年間（平成29年度末までに）実現させる、iii：今後7年間（平成33年度末までに）実現させる、iv：15年後を見すえながら実現に向けて取り組む。

1. 教育に関わる未来プラン

(1) 行動目標

- 1) 芸術工学分野に強い興味関心をもち、意欲ある学生を獲得する。
- 2) 大学院教育を充実させると同時に、学部から大学院への進学 of 動機付けを強化する。
- 3) 教育成果を地域と共有できるような実習課題を採用し、地域に発表の場を設ける等する。
- 4) 特定領域のみではなく、広く他領域を学ぶことのできる相互学習の機会を設ける。

(2) 行動目標達成のための手段

1) 優秀な学生の獲得

a. 本学部から本大学院への進学率向上 (i-ii)

学部生と大学院生との共同作業の機会を設ける、または活動スペースを共有するなど、学部段階から大学院の魅力を経験できる環境を整備する。

b. 社会人のリカレント教育の推進 (i-ii)

大学院における夜間講義の開講、長期履修制度を幅広く広報し、社会人大大学院生の獲得に努める。また、情報、デザイン、建築分野の新しい考え方や技術について再教育を受けられるよう短期リカレント講座を開催する。

c. 入試改革への対応 (i-ii)

国の入試制度改革を視野に入れながら、従来型の学科目テストとは異なる基礎学力、発想力、文章表現力、芸術工学を学ぶ意欲を評価する選抜後方法の導入などを検討する。

d. 高校との連携強化 (iii)

高校教育機関との連携接続を目的とする講座を開設し、高校から大学への連続的教育体制を整え、目的と意欲ある高校生の興味関心を促進する。

2) 魅力ある大学院教育

a. 大学院生研究体制の強化 (i-ii)

大学院生の研究体制を整えるため、複数指導体制を効果的に進めるための合同ゼミの開催、研究進捗チェックのための中間発表の充実を図る。

b. 学生のキャリア形成・就職支援の充実 (i-ii)

同窓会と連携して、社会の各方面で活躍する卒業生によるキャリア教育、就職紹介などの機会を毎年1回以上実施する。

c. 資格取得への対応 (iv)

産業イノベーションデザイン領域、情報環境デザイン領域において、学芸員等の資格取得のための方策を、他学部との協力を念頭において検討する。

d. 国際交流協定校との交流 (iii)

国際交流協定校と定期的にシンポジウムを開催する等教員学生による成果の発表の場を共同で設けることで、協定校相互の交流の動機付けの機会とする。

3) 教育成果の地域への還元

a. 実習課題への地域課題の導入 (i-ii)

実習課題のテーマとして、地域における課題解決のためのテーマを各領域において1課題以上導入し、課題を通じた外部関係者との情報交換、交流の機会をもち、まちづくり活動などを触発する。

b. 卒業研究・制作のレベルアップと効果的広報（iii）

成果物の対外的発表の機会を増やすなど、卒業研究・制作のレベルアップを図る。また、卒業研究・制作集を発行しアーカイブ化し、関連機関に配布するとともに、市民、高校生等への積極的広報を行う。

c. 学生や教員の「発表の場」の設置（iv）

教員、学生による研究制作活動の成果物の発表のための専用ギャラリー、美術館などを設け、日常的にデザイン成果物を目にするのできる機会をつくる。

4) 相互学習の機会

a. 学部における他領域の学習（iii）

学部共通科目、実習課題を通じて、他領域の知識技術に触れることができる機会を増やす。

b. 学部生と院生の共同活動（i-ii）

学部生と院生が共同して取り組むことのできる課外活動などを通じて、年齢層、領域の異なる学生の相互交流を図る。

c. 全学教養教育への参画（i-ii）

芸術工学分野に関する教養科目を通じて、全学教養教育に参画する。

2. 研究に関わる未来プラン

(1) 行動目標

- 1) 研究環境を充実させるため外部資金の獲得を推進する。
- 2) 専門性、研究成果を学内あるいは地域へと還元する。
- 3) デザイン研究の拠点形成を目指す。

(2) 行動目標達成のための手段

1) 研究環境の充実

a. 外部資金の獲得推進（i-ii）

科学研究費の獲得支援体制の充実を図るとともに、自治体からの研究委託、民間との受託共同研究等の外部に対する働きかけを強化する。

b. 複数教員による共同研究支援 (iii)

異なる研究科間の複数教員が連携して取り組む共同研究活動を支援する。

c. キャンパス立地の検討 (iv)

全学及び本学部・研究科の教育研究環境、大学運営の観点から、キャンパスの立地のあり方に関する検討をする。

2) 研究の学内・地域連携と還元

a. キャンパスマスタープラン、施設計画等への参画 (iii)

全学における環境整備に向けたキャンパスマスタープラン、個別の建築計画、維持管理の効率化のための運用計画の作成に参画するなど、施設全般に関わるシンクタンクとしての機能を果たす。

b. シンクタンク機能の強化 (iii)

学術研究、デザイン開発分野において海外研究機関、企業、自治体、地域諸団体のシンクタンク機能を果たせるよう環境デザイン研究所を活用した交流を進める。

3) デザイン研究の拠点化

a. 芸術工学研究科修士の教育への参画 (iii)

芸術工学研究科での博士の学位取得者など、芸術工学プロパーを常勤教員または非常勤講師として招き、専門教育研究の充実を図る。

b. 関連学会への研究成果発表強化 (i - ii)

芸術工学会、日本デザイン学会、人間工学会など関連する学会への研究成果の発表を推進する。

c. 芸術工学関連機関との連携 (i - ii)

九州大学、神戸芸術工科大学など、芸術工学に関連する他大学との交流機会を設け、芸術工学領域の学術上の発展に寄与する。

4) 共同研究の促進

a. 学内における共同研究の推進 (iii)

本学他学部との共同研究を推進するために、医学部・薬学部・看護学部との「医工連携」、経済学部・人文社会学部との「まちづくり・都市」研究に通り組む。

b. 企業・自治体との共同研究の推進 (i - ii)

ものづくりに関わる企業の応用研究、デザイン開発、まちづくりに関わる自治体との政策研究等の共同研究を推進する。

c. 関連シンクタンクとの共同研究の推進 (iii)

国際デザインセンター、名古屋都市センターなどデザインやまちづくりに関わる調査研究団体との合同ゼミ、共同研究を推進する。

5) 国際化

a. 国際交流協定校との交流 (iii) [再掲]

国際交流協定校と定期的にシンポジウムを開催する等教員学生による成果の発表の場を共同で設けることで、協定校相互の交流の動機付けの機会とする。

b. 国際機関への参画 (iii)

世界芸術系大学連合 (CUMULUS)、国際デザイン学会連合 (IASD) などの国際的学術団体に参画し、交流を図る。

3. 社会貢献に関わる未来プラン

(1) 行動目標

- 1) 地域との連携強化を図る。
- 2) 地域の小中高校生に対するデザイン教育を通じた貢献を行う。
- 3) 広報活動を積極的に行い、学部情報を広く発信する。

(2) 行動目標達成のための手段

1) 地域と連携

a. シンクタンク機能の強化 (iii) [再掲]

学術研究、デザイン開発分野において海外研究機関、企業、自治体、地域諸団体のシンクタンク機能を果たせるよう環境デザイン研究所を活用した交流を進める。

b. 企業・自治体との共同研究の推進 (i - ii) [再掲]

ものづくりに関わる企業の基礎研究、デザイン開発、まちづくりに関わる自治体との政策研究等の共同研究を推進する。

c. 関連シンクタンクとの共同研究の推進 (iii) [再掲]

国際デザインセンター、名古屋都市センターなどデザインやまちづくりに関わる調査研究団体との合同ゼミ、共同研究を推進する。

d. 実習課題への地域課題の導入 (i - ii) [再掲]

実習課題のテーマとして、地域における課題解決のためのテーマを各領域

において1課題以上導入し、課題を通じた外部関係者との情報交換、交流の機会をもち、まちづくり活動などを触発する。

e. 近隣に開かれたキャンパスの実現

学生による自主的成果発表の場である卓展、芸工祭に近隣住民が参加できる機会を設け、一方で、地域の活動に教員学生が参画するなど、地域に開かれたキャンパスを目指す。

2) 教育の連携支援

a. 高校との連携強化 (iii) [再掲]

高校教育機関との連携接続を目的とする講座を開設し、高校から大学への連続的教育体制を整え、目的と意欲ある高校生の興味関心を促進する。

b. 小中学校と連携したデザイン教育 (i-ii)

名古屋市内の小中学校と連携し、児童・生徒を対象とするアート&サイエンス教室、建築教室等を開催し、初等中等教育段階でのデザイン教育の普及を図る。

3) 広報活動の推進

a. 広報の充実 (i-ii)

学部における広報媒体(ホームページ、SNS、パンフレットなど)、あるいは作品集(実習作品の記録、卒業作品集)、研究紀要などの充実を図る。また、研究成果や社会貢献活動の積極的なプレスリリースを行い、知名度アップの方策を探る。

4. 学部運営に関わる未来プラン

(1) 行動目標

- 1) 学部運営の多様化に対応するための運営体制を整える。
- 2) 学部運営に関わる資金獲得のための方策を図る。
- 3) 学部での教育研究活動を幅広く外部に発信する

(2) 行動目標達成のための手段

1) 運営体制の充実

a. 運営体制の強化 (i-ii)

学部運営の多様化に対応するため、副研究科長を2名とし、研究科長の職

務を支援するとともに、学部運営を主導する運営会議の役割を見直す。

b. 多様な幅広い教員構成 (iv)

教員構成が属性において幅広く多様な年齢、出身地、性別となるよう配慮する、とくに女性研究者の採用を促す。

2) 運営資金の確保

a. 外部資金の獲得推進 (i-ii) [再掲]

科学研究費の獲得支援体制の充実を図るとともに、自治体からの研究委託、民間との共同研究等の外部に対する働きかけを強化する。

b. 寄付金の獲得 (iii)

企業、卒業生、父兄等に対する働きかけを強化し、幅広く寄付金の協力を求める。

3) 情報発信力の強化

a. 広報の充実 (i-ii) [再掲]

学部における広報媒体（ホームページ、パンフレットなど）、あるいは作品集（実習作品の記録、卒業作品集）、研究紀要などの充実を図りながら、知名度アップの方策を探る。

b. 同窓会との関係強化 (iii)

学部卒業生に限られている同窓会を見直し、大学院生、教職員の参加について検討し、同窓会と学部の関係強化を図る。

VII. 未来プランの推進に向けて

未来プランが実効性ある行動計画となるよう体制を整える。

a. 未来プラン推進委員会の設置 (i-ii)

行動計画の推進を図り、達成度の自己評価、プランの修整などを定期的実施するために学研究科内自己点検委員会に未来プラン推進委員会を設ける。

b. 外部委員によるレビュー (i-ii)

芸術工学研究科・芸術工学部の運営などを外部委員がレビューする機会を設ける。